

# 埼玉県納税貯蓄組合総連合会 優秀賞

## 税金は「支え合い」の象徴

藤沢中学校 三年 宮田 海翔

私は身体が弱く、幼少期はよく病院へ通っていた。今はだいぶ強くなり、病院へ行くことも少なくなった。しかし今でも肌は弱く寒暖差や刺激などですぐに蕁麻疹が出てしまう。それを防ぐために毎月薬をもらいに皮膚科へ通っている。

しかしある時周りの大人は薬代を支払っているのに、自分は支払っていないことに気づいた。私は母になぜ払っていないかたずねると、母はこう答えた。

「この薬のお金は税金から支払われているから税金を納めているたくさんの人の力を貸りて作られているの。」

この言葉の意味を当時の自分はまだ理解することができなかった。しかしこの夏、税金について学ぶ機会ができ、この話を思い出すことができた。そしてあの時は分からなかった話も分かり、はっとした。普段何気なく納めている税金に自分も助けられていたのだ。そして税金がとても身近な物に感じた。

税金と聞くとお金を取られてしまう。というイメージを抱く人も多いと思う。たしかにお金は取られてしまう。しかし税金が無ければ警察や消防、救急などの公共サービスが機能しなくなる。今世界中で混乱を引き起こしている新型コロナウイルスに伴う一回目の緊急事態宣言時に配布された給付金も得ることはできなかった。税金

は社会を巡り私たちの生活を支えている。いわば水のようなものだろう。そしてその税金は時に救ってくれるのだ。実際私は毎月五千円はする薬代を支払わずに済んでいる。この事は私の親を経済的にも精神的にも救っている。このことを機に私は税金に対する思いが変化した。今まで私はなぜ税金を納めなければいけないのかも分らず消費税が10%に変化した時にも不満しかなかった。しかし今では税金の使い道や税金を納めることの大切さを学び、税金を納めているからこそ今の生活があると実感した。

人生百年時代といわれる今の世の中でいろいろなことを体験するだろう。そして生きていく中でたくさん税金を納めるだろう。しかしもしもの時税金は必要不可欠だ。

私は税金こそ「支え合い」の象徴だと考える。そしてその「支え合い」の一部を使い、私たちは学校へ行き、授業を受け勉強することができる。そして「支え合い」に助けられ救われるだろう。そして次は自分が誰かを救う番だ。

私はまだ誰かを救えるほどの力はない。ただ「今の自分にできる最大限の支え合い」をしていきたい。そして大人になった時に税金を納めることで困っている誰かを救えるような人になりたい。